

# 「問われたことに、問われたように」

## 1. はじめに

### 【「設問分解」＋「合格者の再現答案の分析」→「問われたことに、問われたように」】

耳にタコができるくらい言われた言葉だと思いますが、敢えて言わせていただきます。二次試験では「問われたことに、問われたように」解答して下さい。そして、これを愚直に実行して下さい。ただ、これが意外と難しい。まず①何を問われているのか分からない。また②何を答えれば良いのか分からない。そして、慣れてくると③何を答えるべきか分からない。しかし、その具体的な解決策が「設問分解」であり「合格者の再現答案の分析」です。

私でも合格できたのですから、正しい学習方法で勉強すれば皆さんも合格できます。ただ、私のように時間をかけずに、AASを有効に活用して、効率的に勉強して下さい。

## 2. 私の受験歴

### 【合格するまでに13年】

恥ずかしい話ですが、私は診断士の勉強を始めて合格するまでに13年かかりました。

私は平成15年から勉強を始めましたが、なかなか一次試験を突破できず、平成18年にやっと二次試験の受験資格を得ました。しかし、全く歯がたたず、二次試験対策を体系的に学びたいとの思いから、平成19年にAASの門を叩きました。しかし、本科生として学んだものの不合格。その後、一次試験さえ突破できませんでしたが、平成27年にやっと一次試験を突破し、そのまま二次試験も突破する事ができました。

### 【不合格となった要因】

言われた事だけをやっていれば合格できると思っていた節がありました。また、各事例ごとの特徴を捉えておらず、書くべき事を書けていませんでした。最後は、自分で考え、自分で実行する事が必要です。

## 3. 合格者としてあるべき姿

### 【「あるべき姿」を具体的にイメージする】

①「今の自分」をしっかりみつめる

②「あるべき姿」と「今の自分」のギャップを埋める

私が受験生の皆さんに一番お伝えしたいのは「この程度の答案で合格できるんだ」という事です。私の再現答案を見ていただければ分かると思いますが、80分間で読み、考え、書ける事はこの程度です。

ある程度勉強している人は団子状態でほとんど差がありません。

「筆記試験なので答えは一つでは無いのでは？」

「その中で頭一つ抜けるにはどうするのか？」

皆さん悩まれると思います。しかし、乱暴な表現を承知で言わせていただくと「答えはほぼ一つに集約される」でしょうし、「頭一つ抜ける必要も無い」。その事をご自分で気付かれる事が重要だと思います。

#### 4. 課題

##### 【①素直に②シンプルに③多面的に】

具体的に言うと

- ①聞かれた事に忠実に答えている。
- ②ロジカルで因果関係が明確であり、読みやすい（文字数 30 字～40 字で一文）。
- ③診断士らしい多面的な提案を行っている。

私の平成 27 年の試験に向けて掲げた課題は上記の三つです。因みに平成 19 年の時は①一貫性を持つ②因果関係を明確に③具体的に、でした。平成 19 年と比較すると、より単純化された印象を受けます。

診断士の勉強を始めた頃から、私は「文章が稚拙で、子供が書いたような文章」とよく言われてきました。その人のクセというのは、結局一生変わらないのだろうと思います。私もまだそのクセを修正できていません。ただ、そのクセを認識し、その良さを活かしながら、どう修正していくかを考える事は必要です。私の稚拙な文章は裏を返せば、誰でも分かりやすい文章なのかもしれないし、ものは考えようです。その分かりやすい文章をロジカルにすれば、答案にふさわしい文章になるかもしれないと考えました。

また、私がこの三つを課題にした一番の理由は「多年度受験性が陥りやすい答案」になるのを避けるためという目的があります。多年度受験生が一番やってはいけないのは「事例をこねくりまわすこと」。具体的に言うと①推測による解答②長い文章③論理の飛躍です。知識が増えれば増えるほど、解いた事例が多ければ多いほどその傾向は強くなると思います。だって、何年も勉強していると、それっぽい事は書けるようになっていくのですから。ただ、それが答案としてふさわしいかを自己分析していく必要があります。

#### 5. 短期的な対応策

##### 【その一点を削りだせ！】

目指す答案は①×をつけられない②妥当性が高く、モレが無い③泥臭い答案です。間違っても、格好良く当てにいく答案ではありません。各事例で一点づつを削り出していく、4 事例全体で合格点を超える。ですから、試験の最後の 1 秒まであきらめない。目の前の事例に集中するために、過去を振り返らない。それを、いつも通りの解き方で、いつも通りに解いてくる。そんなイメージです。

##### (1) タイムスケジュールの徹底

80 分の使い方は既に決めていると思いますが、そのタイムスケジュールを徹底して下さい。この試験は 80 分間で解答を書き切れなければ、何の勉強をしても意味がありません。どんな解答であれ書き切る事は、合格するために必要な要素です。

そのためには、とことんトレーニングを行う必要があります。タイムスケジュールが体に染み込むまで、何度も何度も繰り返して、徹底的にトレーニングして下さい。また、過去問を繰り返し解く時に設定時間を短くする事で、思考スピードを上げる事も有効だと思います。

と同時に、どんな事例が来てもそれに対応できるタイムスケジュールの想定をしておいた方が良いと思います。与件の長いもの、設問の長いもの、計算させるもの等々。想定できるものは全て想定し、それに対応できる準備をすべきです。特に、私のようにあがり症で動揺しやすいと自己分析されている方には有効です。

余談ですが、いつも通りの平常心を保つという目的で、私は2次試験の前日に、何度も解いた平成26年の問題を、本番と同じ時間設定で、同じように解いて、気持ちを落ち着けました。どうしても前日は気持ちが昂ると思うので、いつも通りの勉強をする事が一つの精神安定剤になりました。

## (2) ファイナルペーパーの作成

私は試験の時には問題集やテキストは持って行きませんでした。持っていったのは、平成25年と平成26年の問題と自分で作ったファイナルペーパーだけです。私がここで言うファイナルペーパーとは、自分がベストだと思うとともに、自分でも書ける、自分だけの模範解答の事です。私は試験に持っていくつもりだった2カ年分を、直前まで、何度も修正しました。このファイナルペーパーを読めば、各事例の必要な要素や切り口が浮かんでくるようにしていました。

具体的な作成方法は長期的な対応策（試験対策編）で述べさせていただきます。

## 6. 長期的な対応策（試験対策編）

### 【問われたことに、問われたように】

先ほど3.「あるべき姿」の話の中で「この程度の答案で合格できるんだ」とお伝えしましたが、この「この程度」を自分なりに分析しなければいけません。その分析に「設問分解」と「合格者の再現答案の分析」が活用できるのです。また、5.でお伝えした「ファイナルペーパー」を作成する時にこの二つを活用しました。

#### (1) 設問分解

なぜ「設問分解」をやらなければいけないのか？

→仮説思考と論理的・体系的思考の定着のため

最初に「なぜ、設問分解をやらなければいけないのか？」を自分で考えて下さい。納得して取り組む事で目的意識が芽生えると思います。

設問分解の特徴として

①設問から読むことで仮説思考となる

②聞かれている事を明確化することで解答にブレが無くなる

③論理構成を分析することで因果関係の明確な文章構成になる

などがあります。

ただ、各自によって課題や改善点は違うので、設問分解で力を入れる部分が違ってきますし、

また、同じ人でも学習段階によって力を入れる部分が違ってくると思います。その課題や改善点を客観的に分析するのに、「設問分解」は非常に有効なツールとなります。

## (2) 合格者の再現答案の分析

なぜ「合格者の再現答案の分析」しなければいけないのか？

→思考パターンを合格者に近付けるため

受験校の模範解答はしっかり作られています。しかし、実際に合格した答案ではありませんし、80分であんなに上手くまとめられるはずもありません。合格レベルを把握するには、合格者の再現答案を分析するのが一番ですし、その合格答案を作成できるレベルを目標にするべきです。

その中で行ってもらいたい事が2つあります。

### ① 答案の内容が同じ場合

→合格者が必ず書いている要素の抽出

合格者の答案が似たようなものになっている設問があります。これは、落とせない設問です。合格者が必ず書いている要素を抽出して、その根拠を考える事で、自分も落とせない設問で必ず点を稼ぐという思考ができるようになります。

### ② 答案の内容がバラバラの場合

→根拠と文章構成を分析

逆に合格者の答案がバラバラな設問もあります。これは全く分からないか、差がついた設問です。必ずと言っていいほど、何を書いて良いのか分からない設問はあります。その中で合格者はどのような根拠で、どのような文書構成にしているのかを分析する事で、現場対応力を高め、なにかしらの解答を書くための思考を身に付ける事ができるようになります。

## 7. 長期的な対応策（モチベーション編）

### 【勉強仲間と習慣化】

私は勉強期間が長いので「13年もの間、どうやってモチベーションを維持したのですか？」と質問を受ける事があります。しかし、正直言って無理にモチベーションを上げようとはしていませんでした。そもそも、毎年、仕事の状況もプライベートの状況も変化しているので、モチベーションは一定ではありませんでした。それに、一次も合格していないのに、二次へのモチベーションなんて、上がる訳がありませんでしたし。

#### (1) 勉強仲間を作ること

最初に、勉強中である事を公言してしまう事です。本気で合格する気持ちがあるなら、多くの人に勉強中である事を伝え自分を追い込む事は最初にすべき事だと思います。

そして、公言する事で勉強仲間を作り、その仲間と仲良くなってしまう事です。勉強仲間には差をつけられ、負い目に感じる事も多いと思いますが、同じように苦労してきた仲間の励ましほど元気付けられる事はありませんでした。また、私の場合は一緒に勉強した友人達に合格者として受験指導をしてもらいました。私が合格できたのは、その友人達の具体的で熱心な指導のおかげです。

## (2) 勉強を習慣化すること

私はモチベーションに関係無く、一年の勉強スケジュールを決めていました。そして、毎年、同じようなスケジュールで勉強していました。

1月～3月：二次対策（白書や本を含む）

4月～7月：一次対策

8月～10月：二次対策

これはスケジュールの一例ですが、一次に合格しなくても二次の勉強は続けていました。

あと、勉強する場所と時間を決めていました。仕事が終わった後はサイゼリアやガストなどのファミレスやコメダに行ったり（最大23時までしか勉強しないと決めていましたが）、休日は9時から17時までには図書館に行き、それから場所を変えて公民館で21時まで勉強したりしていました。勉強する仕組みを自分で考え、それを習慣化すると、本人は頑張っているという意識に関係無く、ルーティンとして勉強するようになると思います。

## 8. 平成28年度に合格予定の方々へ

### 【合格するまであきらめないで下さい】

受験回数を重ねると、不安になる事も多いと思います。

- ・いつまでこの状況が続くのだろうか？
- ・ここで受験をあきらめた方が、良いのではないだろうか？
- ・合格しなければ、今まで勉強した事が全て、無駄になるのではないだろうか？

しかし、私が合格できた、たったひとつの理由は「合格するまであきらめなかった」からです。

早く合格して活躍する事が理想的かもしれませんが、しかし、受験を重ねて、苦勞して合格するのも一つの道です。というのも、重ねた年数は決して無駄では無いからです。重ねた年数分だけ努力が報われないことへの憤りと苦しみを味わい、その分謙虚になれます。また、受験校の講師の先生方や、同じ受講生との繋がりも広がっているはずですから。それは、自分が診断士になった時にかげがえのない繋がりになります。

平成28年度に必ず合格して下さい。あなたを待っている企業や社長さん、従業員さんが、必ずどこかにいるのですから。